

平成 30 年度 東京都内湾水生生物調査 8 月鳥類調査 速報

●実施状況

平成 30 年 8 月 14 日に鳥類調査を実施した。天候は晴れで、気温 30.6～34.9℃、南～南西の風、風速 3.4～9.0m/sec であった。調査当日は大潮で、干潮が 13 時 01 分(27cm)、満潮は 19 時 15 分(202cm)であった(東京都港湾局のデータ)。各地点の概況を下表に示す。

	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚
作業時刻	10:35-11:35	12:20-13:06	14:06-15:02
天候	晴	晴	晴
気温(℃)	30.6	34.9	32.3
風向	南	南	南西
風速(m/sec)	3.4	9.0	6.5
備考	海浜公園側は観光船が通過し、砂浜で遊んでいる人も多く見られた。	多摩川上流部の豪雨の影響で干潟に流入してくる水量が多かった。水も濁っていた。	沖合の風が非常に強く、波も高かった。

●主な出現種等

	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚
数が多かった	カワウ(108 羽)	カワウ(921 羽)	カワウ(1938 羽)
鳥類上位 2 種	コサギ(52 羽)	ウミネコ(123 羽)	ウミネコ(824 羽)
その他の鳥類	カルガモ、サギ類(アオサギ等)、イソシギ、ウミネコ、ハクセキレイ	カルガモ、サギ類(アオサギ等)、ムナグロ、イソシギ、ユリカモメ、オオセグロカモメ、トビ、ハクセキレイ	カルガモ、サギ類(ダイサギ等)、シロチドリ、シギ類(ソリハシシギ等)、オオセグロカモメ、アジサシ、ハクセキレイ
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・重要種として 4 種を確認(ダイサギ、チュウサギ、コサギ、イソシギ) ・第六台場でゴイサギ 1 巣の利用が見られた。 ・鳥の島の護岸でカワウが休息。 	<ul style="list-style-type: none"> ・重要種として 5 種を確認(ダイサギ、コサギ、ムナグロ、イソシギ、トビ) ・干潟でカワウ、ウミネコ、アオサギ、ユリカモメ、オオセグロカモメが休息。 ・干潟でムナグロが採餌。 ・トビが干潟上空を飛翔。 	<ul style="list-style-type: none"> ・重要種として 9 種を確認(ダイサギ、チュウサギ、コサギ、シロチドリ、ダイシャクシギ、クサシギ、キアシシギ、ソリハシシギ、トウネン) ・汀線付近や干潟ではカワウ、サギ類、ウミネコ、オオセグロカモメが休息。 ・ヨシ原でダイサギとコサギが身を隠す。 ・干潟でシロチドリ、ダイシャクシギ、キアシシギ、ソリハシシギが採餌。

＜お台場海浜公園＞

○調査地点の状況

第六台場・鳥の島ではカワウ、サギ類の営巣はほぼ終了していた。



○出現種(カワウ)

第六台場、鳥の島いずれも繁殖活動は終了しており、利用されている巣は見られなかった。鳥の島の護岸では子育てを終えた成鳥や巣立った幼鳥が休息していた。



○出現種(チュウサギ、コサギ)

第六台場でアオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギが確認された。繁殖活動は終了しており、利用されている巣は見られなかった。チュウサギは環境省レッドリスト(2018)で準絶滅危惧(NT)、東京都レッドリスト(2010)で絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定されている。



○出現種(ゴイサギ)

第六台場で確認。繁殖活動はほぼ終了しており、利用されている巣は1巣のみであった。成鳥と幼鳥で色彩が異なる。主に夕方から活動する。夜間にカラスのように「クワッ」「コアッ」という鳴き声を出すことから、夜鳥(よがらす)と呼ばれることもある。



＜森ヶ崎の鼻＞

○調査地点の状況

最干潮時刻のため、干潟は干出していたが、豪雨の影響で干潟に流入してくる水量が多かった。



○出現種(ムナグロ)

干潟で採餌。旅鳥として渡来。水田、畑、河原、干潟、河口などで見られ、ミミズや甲殻類、昆虫などを捕食する。水辺よりも乾燥している場所、海水域よりも淡水域を好む。東京都レッドリスト(2010)で絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定されている。



○出現種(ユリカモメ)

干潟で休息。冬鳥として渡来するが、東京湾では少数の越夏個体が観察されている。海岸や河口などで見られるが、上流域の河川や内陸の湖でも見られる。雑食性が強く、ゴミを漁ることもある。東京都の鳥に指定されている。



○干潟利用状況

干潟ではカワウ、アオサギ、ウミネコ、オオセグロカモメが休息。



＜葛西人工渚＞

○調査地点の状況

干潟は広く干出。水たまりが多かった。



○出現種(キアシシギ)

干潟で採餌。旅鳥として渡来。干潟、海岸の岩場、水田、河川などで見られ、昆虫や甲殻類などを捕食する。「ピューイピューイ」「ピューピューイ」など、よく通る声で鳴く。東京都レッドリスト(2010)で絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定されている。



○干潟利用状況

ダイサギとコサギが干潟のヨシ原に身を隠す。ダイサギの方が多い。

干潟や汀線付近でカワウ、アオサギ、ウミネコ、オオセグロカモメが休息。シロチドリ、ダイシャクシギが採餌。



<その他>

○ウミネコの繁殖

平成 30 年 5 月 16 日、6 月 13 日の調査で繁殖を確認した構造物上では、成鳥 13 羽、幼鳥 2 羽を確認した。幼鳥は既に巣立っていた。



<トピックス>

○チュウサギとダイサギ

今回の調査でチュウサギが新たに確認された。チュウサギの体長(くちばしの先端～尾羽の先端)は約 68 cm、ダイサギは約 89 cmである。名の通りダイサギの方が大きい。両種はとてもよく似ている。身体の大きさ以外に、チュウサギはダイサギほどくちばしが長くない、口角が目の後方を超えないなどの特徴があるが、チュウサギは主に夏鳥として渡来するため、基本的に冬は見かけない。また、主に水田などによく見られ、河川や干潟には出没することが少ない。

